



それは12年前地域の家庭教育学級でのことだった。

日ごろの育児に疲れたママ達が元気に楽しく子育てできるようにしたいとの希望で、渡辺先生を講師にお迎えして始まった。

「もう5歳なのに」から「まだ5歳だから」に

そして質疑応答の時間が終わろうとした時あるお母さんが、スーッと手を挙げて、「あのーと躊躇しながら「うちの子、5歳なのにまだおねしよするんですけど、どうしたら治るでしょうか？」と質問した。私は一瞬、相談もありませんか？と思っただけ、先生は、具体的に

聞いていかれた。しだいにそのお母さんは、「おねしよをされるとまたか！と思って腹が立つんです。私の育て方原因があるんだと思っんです。こんなじやだめですよね？」と自分を責めるような発言に変わった。

何度かのやり取りの後「自分の育て方が原因でおねしよをするんじゃないかって思うのね。」「毎日じゃ嫌になっちゃうよね。でも、あなたはお子さんが傷つかないように、怒りたい気持ちを抑えて、後始末しているのね。」と先生が言われた。そのお母さんは、涙をぼろぼろと流してうんうんと頷いていた。しばらくすると、「仕方ないですよ。まだ5歳だし・もう少し様子を見てみます。」と晴れやかな顔で言った。

えー！おねしよの治し方を訊いたのに・解決法は教わってないのに、

なんでこんなスッキリした顔してるの？このお母さんの中で何が起ったんだろう？と、とても驚いた。そのお母さんの顔は明らかに変わった。これがカウンセリングなのか！とすごく興味をわいて、もっと知りたいと思っった。すぐに渡辺先生の講座に申し込んだ。

「みんな同じがい」から「みんな違ってる」へ

先生の講座は、全20回。ちょうど講座の半分くらいの方に、「みんなちがってみんないい」という言葉聞いたのがきっかけで我が家にもちよつとした変化が起った。最初その言葉聞いたときは、なんだかあんまりシツクリこなくて、納得できな

お母さん! 何だかこの頃うちがいい感じだね! カウンセリングとの出会い

「みんなと同じことはいいこと、むしろ同じ方がいい」とずっと思ってきたし、同じにしようとして生懸命だったから。特に子供たちには、お友達がい

「〇〇ちゃんが行ってるってよ。」とけしかけたり、誰かがピアノを習っているのを聞けば娘にも習わせ

でいるわけじゃないんだ。娘の気持ちなんて全く無視していたことに気づいた。相手が何を言いたいのかを「聴く」ということを学んだ

今日から一日に一回でもいから娘の話を聴いてみようと思っった。「お母さん」と言われたら「なに？」と娘に顔を向けようと思っった。でも、いざその時になると

ら、子供が転んで泣いてるのを見て、痛くない！痛くない！とか、それくらい大丈夫！強い強い！なんて言うんじやなくて、「あー痛かったね。」というのがその子に寄り添う事だという話を聞いて、そうか、無理に泣くのをやめさせようとしたり、痛みを

「この頃うちがいい感じ!!」

それからしばらく経ったころ、娘たちとお風呂に入っていたとき「身体が温まるように百まで数えようか」と言うた。「お母さん！なんだこの頃うちがいい感じだね。」って8歳の娘が言った。それまでの色々な思いが湧いてきて、「えー？いい感じ!？」と言うのが精いっぱい、

それ以上言葉にはならなかった。こんな小さな子供たちに認めてもらえたことに何故か涙が出た。心から嬉しかった。

今、私はぬくもりで、受け手をしている。この体験から「掛け手の話したい」とを解るまで教えてもらおう、ということ意識して電話を受けようと思っっている。

(K・N)

